

千秀だより

横浜市立千秀小学校令和元年（2019）12月1日

12月号

URL : www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/

学校教育目標『自分で考え、表現し、挑戦しつづける子』



ほめる

校長 富田 操

先日、6年生の音楽集会が開かれました。すべての学年の音楽集会の最後を飾る6年生の発表でした。『情熱大陸』という楽曲を、それこそ情熱的に演奏していました。その演奏はさすが6年生というすばらしいものですが、演出もすばらしく、それも自分たちで考えたのだといえます。音楽集会は、どの学年の発表もその学年ごとの感動があり、すばらしいものですが、6年生の発表は、やはり見事で、千秀小学校の6年間の教育の一つの到達点を見る思いでした。

見学されている保護者の方の中にはその成長した6年生の姿を見て、目頭を押さえている方もいらっしゃいました。私も6年生の姿と、その演奏に合わせて踊る担任の姿を見て、込みあげてくる感動を抑えきれませんでした。

きっと、子どもたちは、担任や他の先生たちに、そして、ご家庭で、いろいろな場面でほめられたに違いありません。こうした全力を出した場面でほめられることは、子どもの成長にとって大きな効果があります。子どもにとって大人からほめられることは大きな喜びです。

ただし、それが「本当の意味」でほめられていること、が大切だと思います。

「人はほめて育てる」ことが当たり前になったのは、いつ頃からでしょう。私が子どもの頃は、親にほめられることは、あまり多くなかったような気がします。むしろ、子どもは叱ってこそ育つのだという考えの方が主流だったような気がします。（もしかしたら、私だけのケース・・・かもしれませんが・・・）

いつの頃からか、叱って育てることより、ほめて育てることが大切で、効果もはるかに高い、と言われるようになってきました。

実際に教育の現場にいる者として、実感として子どもを育てるには、「ほめる」ことは本当に大事だと感じます。子どもは、ほめられることで何が正しいのかを少しずつ学んでいきます。そして、良いことをすることが価値あることだということを学びます。そして、自分に自信をもち、その自信をもとに、次の未知なることへ挑戦しようという気持ちをもちます。

ただ、ほめられていることが、その子にとって「本当にほめられるに値することか？」その子が「本当にほめてほしいことか？」ということがとても重要だと思います。

その子が全力を出さずに、適当にやったことや満足いかないことをほめられても、子どもは喜べません。そのことを、子どもは「ほめられた」のではなく「慰められた」と感じてしまうのです。学校は、やはり子どもを慰めるのではなく、ほめるところでありたい、そう思います。そうした意味で、音楽集会での発表もちろん、日常の学習や生活の中で、子どもたちを正しくほめることができる千秀小であるように、教職員全員で千秀の教育に取り組んでいかねばならないと思います。

地域やご家庭で、子どもが全力を出す場面が様々あると思います。ぜひ、子どもたちが誇りに思うような声かけをしていただけると幸いです。今月もよろしくお願ひいたします。